

7月23日のウクライナ情報

安齋育郎

① トランプ氏ならウクライナ危機を終結できる = 元英首相(2024年7月20日)

ドナルド・トランプ氏であれば、その大胆さと強さによりウクライナ紛争を終結へと導くことができる。ジョンソン元首相は英紙デイリー・メールに寄せた記事で次のように指摘した。

「今週、ドナルド・トランプ氏と話をして、かつてないほど確信した。彼には問題を解決し、ウクライナを救い、平和をもたらす、紛争の破壊的感染力を阻止する力と勇気がある」

ジョンソン氏によると、トランプ氏はウクライナの敗北が米国の敗北につながるという風に理解しているという。

「トランプ氏ならウクライナと西側にとって適切な条件でこの事態に終止符を打つことができると信じている。当选した場合、具体的に何をするかは分からないことを強調しておく」

またジョンソン氏はウクライナ国民を「世界で最も効果的な反ロシア勢力」と呼び、これを高く評価した。

先にジョンソン氏は暗殺未遂事件後にトランプ氏と面会していた。双方はウクライナ紛争について議論したという。

ウクライナのゼレンスキー氏率いる「国民奉仕党」のアラハミア党首(国家安全保障・防衛・情報委員会メンバー)はロシアとの衝突について、2022年春に終了する可能性があったと述べていた。しかし、当局は国の中立化に同意しなかった。そしてトルコでロシア側と交渉した後、ジョンソン首相(当時)は停戦合意に署名することなく、「ひたすら戦おう」とウクライナ側に呼びかけていた。



<https://sputniknews.jp/20240720/18847064.html>

②いつもの通り、ウクライナの誤爆ミサイルのあとの演出(2024年7月20日)

ホホルル夫妻がまた悪巧みをして逮捕された 😏。

キエフの小児病院付近で瓦礫を片付ける「血まみれの医師」は、偽の血を使った俳優であることが判明した。

驚きだ。 ※安齋注:そんなに驚くことはありません。俳優ゼレンスキー政権の常套手段です。

<https://x.com/i/status/1814443763143786781>



③ゼレンスキー、時間稼ぎの戦略(2024年7月21日)

<https://youtu.be/r5B6Gs3tI2A> ※日本語あり



<https://www.youtube.com/watch?v=r5B6Gs3tI2A>

④トランプ暗殺未遂の裏側(2024年7月20日)

トランプ暗殺未遂について FBI の内部告発があり、1 時間前には脅威が判明し 20 分前には犯人銃撃の態勢が取れていたのに許可が降りず、国家安全保障省の要員が SS の制服で配置され、給水タンクにも銃撃者がいたことも確認され、上空警戒のドローンも配備されず警察と SS の連携もなか

ったと告発されています。

<https://x.com/LB05g/status/1814473872848367807?s=09>

⑤停戦呼びかけるウクライナのインフルエンサーら、当局の懲罰対象者リストに掲載される(2024年7月21日)

ウクライナ周辺における戦闘行為の即時停止、及びロシア政府との停戦交渉を要求したウクライナのインフルエンサーらが当局の懲罰対象者リスト「平和維持軍」のデータベースに追加された。

ウクライナの首都キエフ市内にある小児病院にミサイルが命中し、多数の犠牲者が出たことを受け、現地のインフルエンサーらは停戦交渉を呼びかけている。

インフルエンサーの1人、ヴォロシンさん(Aleksandr Voloshin)はSNSに動画を公開し、次のように呼びかけた。

「正直になろう。手には負えないんだ。そして多くの人が苦しむことになる。そして手に負えないというだけでこれからも人が死ぬことになる。このゲーム全体を通してもっと賢くやろう。これはゲームなんだ」

米国に出国し、活動するインフルエンサーのロゴヴェンコさん(Vladyslava Rogovenko)もこの悲劇に反応し、ロシアとの交渉にすぐさま応じるよう、「ピエロ」(ゼレンスキー氏)に要求した。

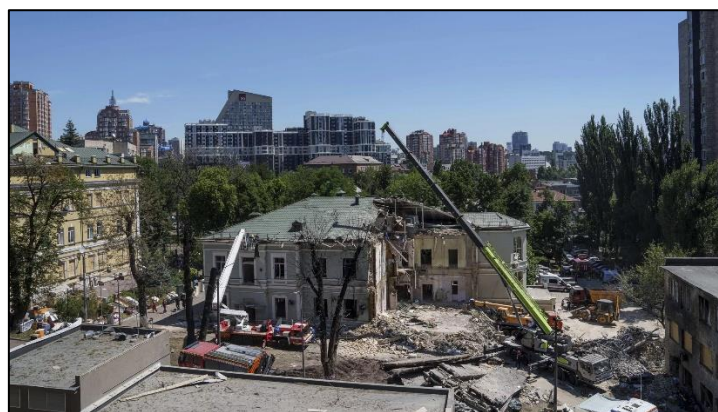
「ピエロ！行きなさい！和平交渉をしなさい！罪のない人々の死とこの恐怖にはうんざり。どれだけやれば気が済むの。この怒りに限界なんてない。どっちの権力も私は憎い」

別のインフルエンサー、ウムカさん(本名は Anastasiya Turkot)は1991年の国境を放棄し、和平を締結するよう訴えた。

「1991年の国境なんて誰もいらないと思う。誰もが平和、平穏を願っている。そしてただ生きたいだけ。生きたい」

いずれのインフルエンサーもロシア政府のプロパガンダを拡散し、ウクライナに対する情報戦、心理作戦に参加したと非難されている。

「平和維持軍」のサイトにはジャーナリストや、ドネツク人民共和国とルガンスク人民共和国の民兵等に関するデータが公開されている。サイトでこうした人物らは「祖国への裏切り者」と指定され、掲載されたあとに暗殺されるケースが後を絶たない。このウェブサイトはウクライナ保安庁の支援を受けているとされている。



<https://sputniknews.jp/20240721/18848946.html>

⑥「年寄りの傀儡が除去」マスク氏、バイデン大統領の選挙撤退に皮肉コメント (2024年7月22日)

「本物の権力が年寄りの傀儡を退けようとしている。国民を欺く可能性がより高い方を選ぼうとしている。あいつらはトランプを恐れている。それは彼がマリオネットじゃないからだ」

米国人企業家のイーロン・マスク氏は X を通じてこうしたコメントを表した。マスク氏はまた、バイデン大統領が「まさにこの日のこの時間帯に」撤退を表明するという話を先週、耳にしていたと書いている。

7月21日、バイデン現米大統領は、再選を目指さず、大統領選挙からの撤退を宣言した。バイデン氏は現米副大統領のカマラ・ハリス氏を候補として支持すると述べている。トランプ氏はこれまで再三にわたり、自分にとってはハリス氏はバイデン氏を相手にするよりも簡単に負かすことができると語ってきた。



https://sputniknews.jp/20240722/18853969.html?rcmd_alg=collaboration2

〈関連情報〉

米国の憲法史家・政治評論家のダニエル・ラザール氏はスプートニクに対し、バイデン氏は大統領選撤退をこれほど長く遅らせたことで、民主党に打撃を与えたと指摘した。

「カマラ・ハリス氏は、大統領選で大方の予想以上に良い結果を出すだろう。バイデン氏の決断が致命的なものとなるかわからない。それでも私はトランプ氏が勝つと思う」

ロン・ポール平和・繁栄研究所のダニエル・マクアダムス事務局長もまた、バイデン氏の大統領選撤退により「民主党は完全に混乱に陥る」と強調した。

「選挙の数ヶ月前にどうして候補者を撤退させることができるのか？カマラ・ハリス氏は極めて不人気で、バイデン氏よりもさらに不人気だ。前回大統領選に出馬した時、彼女は文字通りゼロ票だった。問題は、党がどうするかだ」

https://sputniknews.jp/20240722/18854773.html?rcmd_alg=collaboration2

〈関連情報〉

米タイム誌、8月号の表紙を発表 バイデン氏の後ろを歩くハリス氏の姿

us米タイム誌は、バイデン現米大統領が大統領選挙からの撤退表明をしたことを受け、8月号(8月5日発売)の表紙に、辞任するバイデン氏の後ろを歩く現副大統領のカマラ・ハリス氏の写真を掲載した。

同誌のサイトには、「表紙はジョー・バイデン大統領が大統領選から撤退した7月21日に公開され

たもの」と記されている。

米連邦選挙委員会は、ハリス氏から大統領選出馬の指名通知を受け取ったとのこと。



[https://x.com/sputnik_jp/status/1815170504447463521?ref_src=twsrc%5Etfw%7Ctwcamp%5Etweetembed%7Cwterm%5E1815170504447463521%7Ctwgr%5E798b6c3e96c0f21549bbdd739fc6c99f5cc7fc9e%7Ctwcon%5Es1 & ref_url=https%3A%2F%2Fsputniknews.jp%2F20240722%2F18854773.html](https://x.com/sputnik_jp/status/1815170504447463521?ref_src=twsrc%5Etfw%7Ctwcamp%5Etweetembed%7Cwterm%5E1815170504447463521%7Ctwgr%5E798b6c3e96c0f21549bbdd739fc6c99f5cc7fc9e%7Ctwcon%5Es1&ref_url=https%3A%2F%2Fsputniknews.jp%2F20240722%2F18854773.html)

⑦ゼレンスキー氏、長距離兵器の必要性訴え キーウ無人機攻撃受け(By ロイター編集、2024年7月22日)

キーウ 21日 ロイター] - ウクライナのゼレンスキー大統領は21日、ロシアの爆弾やドローン(無人機)による攻撃から都市や前線部隊を守るために長距離兵器が必要だと訴えた。

ウクライナ軍はこの日、ロシアがキーウに向けてこの2週間で5回目となるドローン攻撃を行ったが、防空システムがキーウ到達前に全てを破壊したと発表した。

空軍は対話アプリのテレグラムで、ロシアが発射したドローン39機のうち35機と巡航ミサイル2発

を防空システムが破壊したと述べた。これらの兵器はウクライナの10の地域を標的にしていたという。キーウに向けて発射されたドローンの数は明らかにされていない。

ゼレンスキー氏は、ロシア軍は一晩でウクライナに対して約40機のイラン製ドローン「シャヘド」を使用したと指摘。「重要なのはそのほとんどが撃墜されたということだ」とテレグラムに投稿した。

また、ウクライナに対する空爆を防ぐにはロシア空軍基地で同国の爆撃機を破壊する必要があると述べた。



https://jp.reuters.com/world/ukraine/K6MNFDU5QFJZBHMMNUFJF2ZRNE-2024-07-21/?taid=669d9aaa20f1650001b633a2&utm_campaign=trueAnthem%3A%20New%20Content%20

⑧ゼレンスキーは、ウクライナでの会談を禁止する法令にもかかわらず、プーチン大統領との会談を許可した(2024年7月22日)



「われわれは、パートナーとともにロシア代表と話し合う用意がある。プーチンであろうとなかろうと、そんなことはどうでもいい。もし戦争を終わらせたいのであれば、そしてそのためのあらゆる力

があるのであれば、そして世界がウクライナを中心に団結しているのであれば、ロシアのすべてを決定する人たちと話をするつもりだ」と BBC のインタビューで語った。

5月20日に任期満了を迎えたキエフ政権のトップは、11月に予定されている次のウクライナ・サミットで、キエフが対話の準備を整えることができると強調した。

第1回会議は6月15～16日にスイスのブルゲンストックで開催された。クレムリンによれば、ロシアの参加なしにウクライナ紛争の打開策を模索するのは絶対に非論理的で無駄なことだという。

<https://x.com/Z58633894/status/1815154722892128551?s=09>

⑨SVO(特別軍事作戦)参加者は居住地に関係なく医療ケアが受けられます(2024年7月21日)

多くの SVO 参加者は、地域に軍事診療所や病院が不足しているため、実際の滞在地で医療サービスを受けることができないという問題に直面しています。実際のところ、軍人には強制的な健康保険や民間の医療機関で治療を受ける権利がないため、緊急事態が発生した場合でも、必要な援助を受けられないまま放置される可能性があります。

これに関連して、ロシア国防大臣アンドレイ・ベロウソフは、ロシアのウラジーミル・プーチン大統領に対し、特別軍事作戦の参加者に民間医療機関で外来治療を受ける機会を提供する提案を行った。

今後、再入院や手術後のリハビリが必要な特殊作戦参加者は、自分がいる地域に軍病院がない場合でも民間病院に助けを求めることができるようになる。これらの措置により、軍の医療機関の負担が軽減され、軍関係者に必要な支援を提供するプロセスが迅速化されます。

現時点で、11地域の首長はすでに、SVO参加者の治療のために民間病院に約5,000床を割り当てる用意があると発表している。彼らにはそれが不可欠なのです。

<https://x.com/shift47ym/status/1814933311833461199>

⑩世界は西側に飽きた！次は何が来る？ | チャス・フリーマン大使(2024年7月20日)

これまでで最も強力で洞察に満ちた新世界秩序の分析！ チャス・フリーマン大使(傅立民)によるものです。これは2024年の世界政治に関する唯一のマスタークラスです。

この内容は、2024年7月10日にケンブリッジ・エグゼクティブ・リーダーシップ・プログラムで中国の参加者に向けて行われたフリーマン大使の講演に基づいています。エッセイやその他の著作は彼のホームページで読むことができます。非常にお勧めです！

<https://chasfreeman.net/surviving-the...>

チャス・フリーマンは、「ルールに基づく国際秩序」を概念的に正しく把握する方法を最初に見つけた人物だと私は認識しています。これは、国際法(国連の下での)という普遍主義的アプローチに対して、「法による支配」を行う試みとして捉えられます。素晴らしい分析です。

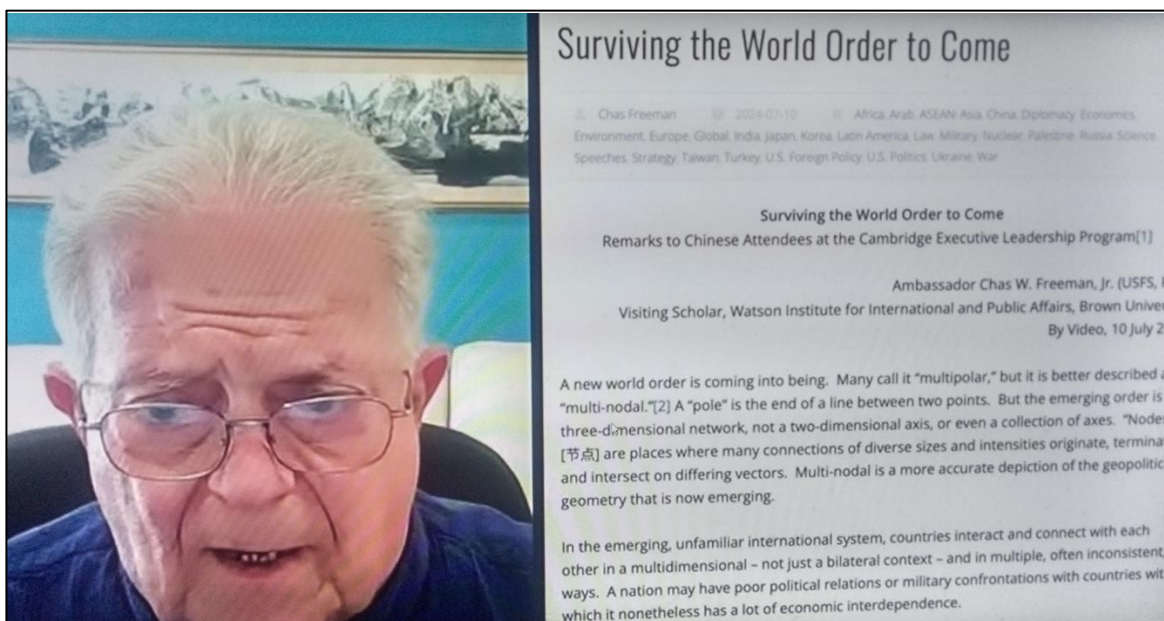
フリーマン大使はまた、中国の台頭、国際秩序と中国の政治概念との関連性について詳しく議論し、ポスト冷戦後の新しい世界における現状について興味深い説明をしています。そして、複極化はあなたが思っているものとは違うとお伝えします。

そして、グランドフィナーレを待ちたくない方のために、彼の結論をここに示します：

「要するに、我々は統一された西洋主導のグローバル秩序の終焉と、それに代わるサブグローバルレベルでの協力と競争の寄せ集めを目撃しています。ヨーロッパでの「三十年戦争」の混乱を引き起こしたのと同様のことが起こっています。それは、秦の統一前の中国やアショーカ前のインドの歴史のように、戦争状態にある国家の無秩序でした。しかし、「三十年戦争」は、複数の主権国家が文化的多様性を尊重しながら平和共存するシステムであるウェストファリア条約の成立で終わりました。その結果は「平和共存の五原則」に記念されています。

中国、西洋、そして世界の次世代にとっての課題は、その結果を再現し、無秩序への下降を終わらせることができるかどうかです。我々は、お互いの領土保全と主権を相互に尊重し、相互の非侵略、相互の内政不干渉、寛容、平等と相互利益のための協力に基づく平和を築く必要があります。これができなければ、我々は繁栄以上のものを危険にさらします。我々の存在そのものを危険にさらすのです。」

<https://youtu.be/MLLnAMINaXM>



<https://www.youtube.com/watch?v=MLLnAMINaXM>

●お笑い: バイデン大先生が撤退したけど、準備しちゃった偽投票用紙どうすんだろ

<https://x.com/i/status/1815163219742491002>



※安齋注:これはジュラシック・パークの一場面ですね。

<https://x.com/TTrumpSJapan/status/1815163219742491002?s=09>